

Campus News

[キャンパスニュース]

2018. **2**
Vol.51

【特集】

- 情報デザイン学科4年 川崎真依さんが、マニフェスト推進賞〈市民部門〉最優秀推進賞を受賞
- 機械工学科3年 矢野幸子さんが、「トビタテ!留学 JAPAN」に採択され、ブラジル航空技術大学 (ITA) への留学が決定
- 電気電子工学科 服部知美准教授が第3回永守賞を受賞



■ 袋井の伝統文化「丸凧」作りにチャレンジ

機械工学科学生有志が、袋井丸凧の会の皆様の指導協力の下、地元袋井の伝統文化である丸凧作りを行いました。丸凧は、江戸時代に歌川広重の東海道五十三次や2代目歌川広重の諸国名所百景などの浮世絵にも描かれています。

はじまりを、つくる



静岡理科大学





学長挨拶

対話型授業を通して、創成能力や応用能力を育む

学長 野口 博

本学では、産業界で活躍できる専門力と人間力の相乗的な総合力を有する人材の育成を目指しています。学部卒業時の総合力として、スキル、社会性、創成能力が必要です。卒業研究やPBL型授業等の特定科目以外の、通常の講義でも対話型にする工夫により、諸能力を向上することができます。教員には、教育課程の更なる体系化をお願いしています。学生の皆さんにも、この諸能力を、次のように学修して頂けたらと思います。専門は、「建築学」となっていますが、皆さんの専門に置き換えて、目指してください。

汎用的な技能(応用的能力)：スキル

課題発見解決力：解は多様であり、解決に際し、学生は新課題を発見する過程を経て学ぶ。

論理的思考力：学生が、実現象を建築現場等で観察した後、原因を分析し、対策を考案する。

コミュニケーションスキル：学生が、自ら調査したことを纏め、パワーポイント等で発表する。

情報リテラシー：学生が、IT等により情報を収集し、パソコンを用いてレポートを作成する。

数量的スキル：学生が、演習や実験により計算する。

態度・志向性(道徳的能力)：社会性

自己管理能力：学生が、受講活動を記録し、学習の進捗度等を自ら確認する。

チームワーク：複数の学生が、建築の設計課題や演習・実験で、共同して課題に取り組む。

リーダーシップ：上述のチームワークに際して、特定の学生がリーダー役を務める。

倫理観：建築設計、技術開発、システム設計等の成果として、市民生活・経済活動に及ぼす正・負の影響を、学生自ら考える。

市民としての社会的責任：学生が、将来進む建築業界等での、社会に悪影響を及ぼす情報を収集する。読書や新聞、IT等で社会の動きを知る。

チャンスを活かす能力：学生が、課題を自ら設定・解決し、レポートとして提出する。

生涯学習力：学生が、新聞、IT、学会誌を読む。良い建築、美術館、博物館等を見学する。

総合的な学習経験と創造的思考力(創成能力)

学生が、建築現場を見学し、複数の学問を統合化して、製造・建設ができることを認識する。建築物を建設するためには、計画、設計、構造、設備、地盤工学、材料・施工等の技術を活用している実態を知る。

遠州灘

遠州灘

昨年4月に新設した建築学科棟えんつりーは、夜間には暖かい色合いの照明で照らされ、思わず見とれてしまいます。この新棟一階のデザインスタジオでは、授業時間終了後も、熱心に製図に取り組み、議論している1年生の姿が多く見られます。天井が高く、間仕切りのない、開放的なこのスタジオの中で、様々なアイデアが生まれ、育まれていくように感じます。これから20年・30年後にはこの環境で育った人々が遠州をしっかりと支えてくれると予感します。(N)

学生の特集 学生の活躍

情報デザイン学科4年 川崎真依さんの所属する団体が、 マニフェスト大賞 マニフェスト推進賞〈市民部門〉最優秀賞を受賞

地方自治体の議会や地域主権を支える市民等の、地域創生を推進する活動に与えられる「マニフェスト大賞」

(主催:マニフェスト大賞実行委員会)にて、川崎真依さん(静岡県立焼津中央高等学校出身)の

所属する学外団体「若者による静岡県知事選公開討論会実行委員会」が、マニフェスト推進賞〈市民部門〉最優秀賞を受賞しました。



授賞式の様子(右:川崎真依さん)

本受賞について、川崎さんにお話を伺いました。

●静岡若者県民会議の参加がきっかけに

静岡理科大学の女子学生団体「Rikejo Café」に所属し、キャンパスライフ向上や女子を取り巻く理工分野の情報収集などを議題に、大学や地域にどのようなことで貢献できるのかを考え、活動をしてきました。

その中で、大学を代表し、「静岡若者県民会議」というワークショップに参加しました。そこでは、自治体の職員の方や他大学の学生の皆さんと共に、地域社会の情勢を学び、人口減少等の社会問題への解決策について、「まち」「ひと」「しごと」の観点から理想の静岡県とはどうあるべきか、どのようなことが必要であるかを考え、話し合いました。もちろん最初から意見を上手くまとめることはできませんでしたが、学内外の社会人の方から多くのアドバイスをいただき、少しずつこの街がどのような問題を抱えているのかを知ることができました。

この経験が、私の大きな礎となっています。

●一歩踏み出してみる

私は、色々なことに興味関心を持つ性格だと思います。大学でも軽音サークルやRikejo Caféなどの複数のサークル活動に参加しました。

このような性格もあり、静岡若者県民会議にも自ら参加し、色々な方と出会い、刺激を受けることができました。この経験からも、自分の意見を持つことは大事ですが、自分の殻に閉じこもるだけでなく、外の世界や他の人の意見に触れることも重要であると思えるようになりました。

●表彰されることが目的ではない

マニフェスト大賞での受賞は、平成29年6月に行われた、静岡県知事選挙の公示前に候補予定者を招き開催した討論会が評価を受けました。

討論会では、事前に街頭インタビューやインターネットを利用し、若者からの静岡県に対する要望などを集め、私を含めた委員会メンバーが代表して、候補予定者に質問を投げかけました。「静岡県の未来を若者の目線で考えたい」「その声を代表者に届けたい」という想いを実現したまでです。賞をいただいたことは大変光栄ですが、多くの活動を通じ、多くの人との縁が育んだ、「若者として今何ができるのか」を実行した、一つの成果として考えていません。なので、今後も人との出会いを大切に、目の前の今出来ることにチャレンジしていきたいと思えます。

●理系女子の輝く未来へ

4年間の大学生活を通じて、静岡理科大学には、女子学生が少ないですが、女子学生にも活躍できる場があると思います。Rikejo Caféの活動だけでも、学長との対談や愛野地区情報誌の発行など、貴重な経験ができました。また、その活動を支援してくれる教職員の方がいることもこの大学の強みであると思います。

これから静岡理科大学で学ぶ学生の皆さんも、色々なものごとを見て感じ、若者の目線での考えをまとめ、自分のため、大学のため、地域のために積極的な提言を行ってほしいです。

「思い立ったら吉日」と思って、
まずやってみてほしい。

機械工学科 3年

矢野 幸子

本学初の、文部科学省の展開する「トビタテ!留学JAPAN」の制度を活用し、ブラジル航空技術大学(ITA)へ留学する理工学部 機械工学科3年の矢野幸子さんに、お話を伺いました。



Q: 理工系に興味を持つきっかけを教えてください。

A: 小さな頃から、母親の影響もあり、フォーミュラ1を見るのが好きでした。夏休みの自由研究でも、工作キットを用いたものづくりをする様な子供でした。また、静岡市出身なので、ホビーショーにも毎年ウキウキしながら行きました。

Q: では、趣味や好きなことも、工作であったり、車に関することですか。

A: そうですね。でも、思春期の頃は周りの友達の間目もあって、車に関する気持ちに蓋をする自分がいました。しかし、高校生になり、将来何をしたいのかと考え始めた時、車に関する職業に就きたいと思う自分がいました。そこからは、車については、趣味というよりも就く職業としての現実的な目標に変わりました。

Q: そうなんです。

では、大学を選んだ理由はなんですか。

A: 私の家庭では、「自分のやりたいことは、自分で決め、自分で全てやる」ことがルールとしてあります。なので、大学進学についても、すべて自分の意志で決めました。大学には、「学生フォーミュラ」の大会があることを知り、この活動に携わることを第一優先とし、進路を静岡県内で学生フォーミュラ活動ができる大学に決めました。

Q: なぜ静岡理科大学だったのですか。

A: 学生フォーミュラ活動ができる静岡県内の大学は2つあり、両方の大学に合格しました。さあどっちにいくか!?と考えた時に、「自分のやりたいことが本当にできるのはどっちだ」と考えました。どちらの大学も見学し、自分の目でフォーミュラの活動を見ました。その中で、「活動への熱意」を学生さんや大学の大会への関わり方などから、より感じたのが静岡理科大学でした。

Q: それ以外のことは気にならなかったのですか。

A: はい。大学選択は一般的に学力(偏差値)で決められがちですが、その選択はなかったです。どんな環境でも勉強はできると私は思っています。自由にやりたいことが出来る環境かどうかが一番重要で、それができる大学を選んだだけです。授業料のことは気になりましたが、そこは自分で頑張って、奨学金を受けることで、なんとかなると思いました。

Q: 実際にフォーミュラ活動を行って、どのようなことがありましたか。

A: 真剣にものづくりに携われる活動は、私が求めていたものでした。それ以上に、部活の仲間や、他大学の学生、スポンサー企業の方など、様々な人との交流ができたことが一番大きな経験となっています。

Q: 一番の思い出は。

A: 学生フォーミュラ大会では、約20ヶ国の学生が日本に集まります。他国の学生と英語で交流する中で、様々な文化の違いを感じることがありました。そこから、もっと他国の文化を知りたいと思い、海外に目を向けるようになりました。

Q: それが今回の「トビタテ!留学JAPAN」に応募するきっかけになったのですか。

A: それだけではありません。平成28年の12月に静岡県との交流があるブラジル航空技術大学(ITA)の方が理科大学に来られ、私達のフォーミュラ活動を見学されました。その中で、「ITAでも学生フォーミュラ活動を推進していきたい」と話をされたこともきっかけの一つです。

学生の特集 学生の活躍

Q: きっかけというのは。

A: 私は、将来自動車のエンジニアになりモデルベース開発に携わりたいと考えています。そうなるためには、コンピュータを用いたシミュレーション技術を学ぶ必要があります。この技術は、航空宇宙開発産業のレベルが高いため、ITAで学ぶことは多いと思いました。

Q: なぜブラジルを選択したのですか。

A: 大学同士が交流関係にあったことも確かにですが、色々調べると、ブラジル国内においては航空産業が一番発展しています。その国の最先端に触れることができるのが、とても魅力的でした。逆に、ブラジルの自動車産業は国産メーカーがなく、発展していません。その理由や、日本車の需要があまりない現状がなぜなのかを、現地を感じたいです。

Q: 『トビタテ!留学JAPAN』に応募してみたの感想はありますか。

A: この支援は、文部科学省が実践活動に携わる学生に対する留学支援です。応募にあたり、私が留学することで、世の中の何に役立てることができるのか、日本の産業界にこの経験がどのように貢献できるのかを整理するの必要がありました。整理をすることで、将来について、「就職先という機軸ではなく、どんなことをして産業界に貢献したいのか」について考えることができました。

Q: それでは、ブラジルでの矢野さんのミッションはなんですか。

A: 2つあります。まず、航空産業のコンピュータでのシミュレーション技術を学ぶこと。2つ目は、ITAで学生フォーミュラ活動を推進する

ことです。ブラジルにも学生フォーミュラ大会があり、ITAにも自動車部があります。技術力のソフト面や施設のハード面は整っていると思いますので、私が日本の活動で学んだ、大会レギュレーションや大会までの準備の流れなどを生かして、大会に出場したいと思います。

Q: この留学に向けて生きたこれまでの経験はありますか。

A: 学生フォーミュラ活動での経験が一番ですが、もう一つ、静岡若者県民会議の活動に参加したことも大きいです。静岡に若者を増やすために、何をすべきかを纏める際、根拠となる社会情勢や政治を学びました。この経験が、なぜ留学をするのか、留学してどう社会に貢献できるのかを、自分本位でなく社会という大きな枠組みの中で考える基礎となりました。

Q: では、最後に留学への抱負と在學生、高校生へのメッセージをお願いします。

A: そうですね、学生生活は、自由だと思います。なので、やりたいことがあれば、「思い立ったら吉日」と思って、まずやってみてほしいです。あれこれできない理由を考える前に、自分がどうしたいのか、どうなりたいたいのかを思い浮かべて、楽しみながら実行に移すことが、自分にとっての幸せへの第一歩であると思います。

※トビタテ!留学JAPAN

意欲と能力ある全ての日本の若者が、海外留学に自ら一歩を踏み出す機運を醸成することを目的として、将来世界で活躍できるグローバル人材の育成を目指すプログラム。

公式HP <http://www.tobitate.mext.go.jp/index.html>

※ブラジル航空技術大学(通称:ITA)

ITAは、Instituto Tecnológico de Aeronáuticaの略。ラテンアメリカで最難関の工科大学と言われている。大学は、ブラジル空軍の敷地内にある。

— 国際交流センター主催 — 「トビタテ!留学JAPAN採択者報告会」の開催

平成29年12月11日(月)、機械工学科3年の矢野幸子さんが文部科学省の展開する「トビタテ!留学JAPAN」の制度を活用し、平成30年2月より、ブラジル航空技術大学(ITA)へ1年間留学することに伴い、その目的や将来の夢を語ることにより、本学の学生が海外への興味を深めることや留学のきっかけとなることを目的に報告会を開催しました。

矢野さんから参加者に対し、「留学することが重要ではない。将来のありたい自分の姿を描き、その姿を実現するために、何が必要であるかを考えることが重要である。私の場合は、海外でモデルベース開発について学ぶ必要があった。」と語られました。

なお、本イベントの来賓として、

一般社団法人ラテンアメリカ協会 理事 工藤章様
在浜松ブラジル総領事館 副総領事 アマド・パウロ様
静岡県庁 経済産業部理事(新産業集積担当) 梅藤久人様
静岡県庁 地域外交専門官 モライス・アレシャンドレ様
袋井市国際交流協会 会長 下山好治様

にご臨席いただきました。

ご来賓の方々からは、ブラジルの国柄・情勢やITA、静岡県とブラジルとの関わり等について、ご講演やご挨拶をいただき、合わせて矢野さんへの激励をいただきました。

また、本イベントに本学の学生31名が参加し、熱心に話に耳を傾けた姿勢から、海外への興味を深めたことと思います。

今後も本学の学生が海外や留学に興味を持つようなイベント等を実施していきます。



学長杯ソフトボール大会

6月17日(土)、本学グラウンドにて、クラブ連合委員会が主催する、学長杯ソフトボール大会を開催しました。軟式野球同好会を含む4チーム、38名の参加者が熱戦を繰り広げました。トーナメント戦を勝ち抜き、優勝に輝いたのは前回のソフトボール大会の覇者、「MARIMO STARS」でした。天候にも恵まれ、快晴の空の下、学生たちは、日頃交流が難しい他サークルとの交流を楽しみました。



SIST体験型講座

7月15日(土)、本学でSIST体験型講座を開催し、当日は20名の皆様にご参加いただきました。「オープンストリートマップ*を用いてみんなで地域情報データを作成しよう」をテーマに、コンピュータシステム学科の長尾雄行講師が解説した後、参加者たちは実際に袋井市の地図に情報を加える体験をしました。持参したスマートフォンを使用しての体験に参加者からは「自分なりに情報発信ができて楽しかった」といった感想をいただきました。

※オープンストリートマップとは、インターネット上でユーザが自由に参加できる地図プロジェクト



国際交流バスツアー

7月22日(土)、国際交流バスツアーを開催し、本学学生16名が参加しました。参加者たちは大学を出発し、駿河湾フェリーに乗って恋人岬、虹の郷を観光するルートの中で、美しい自然や文化に触れました。日本人学生にとっては、留学生との文化の違いを、留学生にとっては、日本の新たな一面を知ることができました。そして、交流を深めることで、国際化について考えるきっかけのツアーとなりました。



市民体験入学

8月26日(土)、本学で市民体験入学を開催し、当日は約200名の皆様にご参加いただきました。基調講演では、独立行政法人宇宙航空研究開発機構の川泰宣名誉教授を招き、「いま日本で生きること～はやぶさからのメッセージ～」をテーマにご講演いただきました。その後は、座学講座、体験講座の計7つの講座に分かれ、本学教員が講師を務めました。ご参加いただいた皆様からは、「平凡な毎日の中に色々な考え方や問題があることに気付かされた」といった感想をいただきました。



学生フォーミュラ大会

9月5日(火)から9月9日(土)にかけて、エコパで第15回全日本学生フォーミュラ大会が開催されました。本学自動車部が、ICV(ガソリン自動車)部門とEV(電気自動車)部門に出場しました。今回は、車体の軽量化を目指して工夫を重ね、ICV部門では2年ぶりに完走することができました。EV部門でも、オートクロスで過去最速タイムを出すことができました。4年生は達成できなかった課題への悔しさをにじませながらも、後輩たちの来年度の活躍に期待し、大会を終えました。



SISTコロキウム

9月10日(日)、本学でSISTコロキウムを開催し、28名の皆様にご参加いただきました。SISTコロキウムは提供された話題について討論を行う静岡理科大学版サイエンスカフェです。今回は、地元の高校生が話題提供者となり、一般参加者、参加高校生同士での意見交換を行いました。一般参加者からは「身近な話題の中に新しい発見があった」「学生時代を思い出した」といった感想が寄せられ、世代を越えた交流の時間になりました。



地域学

10月3日(火)、本学で地域学の表彰式を行いました。地域学は袋井市と本学の包括連携協定に基づき、学生たちが袋井市のまちづくりについて考える講義で、今年度は約40名が受講しました。8月に、「ラグビーワールドカップに向けたまちの国際化」について、学生たちはエコバスタジアム、愛野駅周辺のフィールドワーク等を行いました。その後、袋井市職員の皆様のアドバイスを受けながら、グループごとにアイデアをまとめ、「市内の空家のリノベーション」などのアイデアを原田袋井市長に提言しました。



大学祭

10月28日(土)、29日(日)の二日間、本学大学祭実行委員会主催の大学祭「SISTIVAL'17」を開催しました。「Re Start」をテーマに、カノエラさんのスペシャルライブや、建築学科棟見学会、移動動物園などのイベントを行いました。また、2日目にはホームカミングデーも同時に開催し、多くの卒業生の皆様に来場いただきました。あいにくの天気でしたが、大勢の皆様に来場いただき、盛況のうちに大学祭を終えました。



公開講座

11月23日(木・祝)、本学で第3回公開講座を開催しました。当日は約140名の皆様にご参加いただきました。「実世界と情報社会を融合する知的な情報システムとは」をテーマに、電気電子工学科の加藤丈和准教授と、京都大学大学院情報学研究所の川嶋宏彰准教授がそれぞれ講演を行いました。



地域創成フォーラム

11月28日(火)、クラウンパレスホテル浜松にて地域創成フォーラムを開催し、当日は約170名の皆様にご参加いただきました。特別講演として凸版印刷株式会社情報コミュニケーション事業本部ソーシャルビジネスセンター部長真梶重徳氏に「凸版印刷における新事業への取り組み」と題して講演をいただきました。また、本学教員や静岡県の試験研究所の技官による研究事例発表や、パネル等による研究紹介も行いました。本学の研究力を一同に紹介することで、産学連携による研究開発や地域活性化について考える時間となりました。



Message for S.I.S.T. [大学へのメッセージ]

モノづくりに愛着と誇りを

袋井丸風の会 会長 太田 忠四郎さん



昨秋、機械工学科航空工学コースの学生さんが「竹と和紙という天然の素材を生かして、自分の手で丸風を作り天まで揚げる」そんな楽しい創作の世界に挑戦しました。

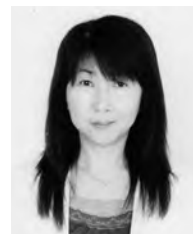
今から30年前の夏、私は、アメリカ合衆国テキサス州ダラスフォートワース空港の滑走路(4,000M×8本)に立っていました。それは、静岡空港建設計画が3候補地で検討の最中、当時、世界一大きな空港視察に参加し渡米。「お土産に何を?そうだ、日本の伝統文化で空にフライトするのは、丸だ!」。その折、丸店で浮世絵師歌川広重初代・二代の袋井を描いた浮世絵の中に大きな丸い丸風を発見。再現し、袋井丸風の会を設立。保存と伝承に努めています。

今回、みなさんが袋井の文化に興味を持たれ丸風作りと丸揚げにチャレンジされたことは、同じ空を活かす航空工学の世界の「新たな価値の創造」に繋がるのではないのでしょうか。そして「モノづくりに愛着と誇り」を持って活躍されることを期待しています。

出会いから繋がる～明日にける橋～

明日にける橋製作実行委員会 実行委員長

株式会社ヒーローズアカデミー代表取締役 山本 泰子さん



私と静岡理科大学との最初の出会いは、2004年TVドラマ『WATER BOYS2』の撮影でした。石原さとみさん率いる吹奏楽部が大会に向かう途中に渋滞に巻き込まれるシーンを、大学構内にエキストラ車100台を集め撮影にご協力いただきました。

それから約10年が経ち、袋井市の台湾派遣団で野口学長や十朱教授と出会いました。数日間ご一緒させていただいたご縁で帰国してからも親交が続き、昨年は遠州で制作の市民映画「明日にける橋」を通じ、更に多くの教授の皆さまとも交流させていただき、この映画の重要な場面の撮影地としてもご協力いただきました。13年前の撮影ロケ地を思いだし、今回の映画の某場面ロケはこの場所がピッタリだと監督に連絡。13年前があり、教授との出会いがあり、遠州の花火もりあげ大使での繋がりもあり、今回の映画製作ロケに繋がっていったと思います。

人と出会う事、未来のことは誰もわかりませんが、きっと何かに、次に繋がっていくと思います。未来ある学生の皆さんは、今の仲間、これから出会う人を大切にしていって欲しいと思います。

映画「明日にける橋」は、2018年夏全国公開予定です。



活躍する卒業生

富士フィルムメディカルITソリューションズ株式会社

遠藤 高史さん

情報システム学科(現:情報デザイン学科) 第16期卒業生

私が静岡理科大学へ進学したのは、興味を持っていた脳とコンピュータが両方学べるからでした。卒業研究では奥村研究室(神経行動学)を選びました。研究室配属後は、先生に紹介していただいた学会のサマースクールや研究会などにも参加し、自身の研究成果を発表しポスター賞を受賞することができました。このことはその後の自信にも繋がっていると思います。大学院への入試は大変でしたが、

勉強の進め方について丁寧にアドバイスを下さった先生方にはとても感謝しています。

現在、医療文書の作成や患者様の検査データの一元化と閲覧など、医療に特化したソフトウェアの開発に携わっています。医療情報を扱うため、スピードと正確さを常に求められます。プログラミングやコンピュータの知識も活かされていますが、特に問題の調査・解決を行う場面では仮説検証を行うことが多く、卒業研究での経験が大いに活かされていると思います。

昨今、人工知能をビジネスに取り入れる事例を耳にしますが、医師の診察をアシストするような人工知能の活用や開発に挑戦してみたいと考えています。

授業の紹介

■ 航空工学創造演習

機械工学科の航空工学コース3年生が年間を通して行う必修科目で、基礎的なエンジニアリングデザイン能力の習得を目的としています。与えられた制約条件を満たすデザインや問題解決の方法を学習し、講義で学んだ知識(流体力学・材料力学・工業力学・機構学・制御工学・構造力学・飛行力学・設計製図など)を応用して、創造力、コミュニケーション、チームワーク力を育成しながら目標を達成して行きます。

また、宇宙航空機に関連したテーマ(固定翼および回転翼飛行ロボット、有翼ロケット、タービンエンジン模型などの設計・製作)の要求仕様に対して設計・製図・製作・性能評価・改良などの計画を立案して企画書を作成し、各チームに分かれて実際にモノをつくり、その演習効果のプレゼンテーションを行います。

担当教員: 機械工学科 教授 **増田 和三**、特任教授 **園田 豊隆**
准教授 **花田 佳彦**、特任講師 **田村 博**



製作風景



昨年度発表会の様子

数理科学研究室(コンピュータシステム学科)

仮想現実や360度カメラ等のテクノロジーには、数学や工学等の分野での長年の研究成果が応用されています。例えば、ハミルトンが19世紀に導入した四元数という概念は、21世紀の現代では仮想現実を実現するためのゲームエンジン内部で、空間内の回転を効率よく表現するために使われています。

当研究室では、仮想現実や360度カメラ等のデバイスの利活用を通じて、テクノロジーを支える普遍的な数学の概念を理解し、プログラミング言語を駆使して、社会での応用を想定した独自のアプリケーションを創り出す活動を行っています。また、数学が苦手な人のための学習支援を行うe-Learningシステムや教材開発も行っています。



研究室訪問

第39回

研究室学生からひとこと

寺田 憲弘さん (コンピュータシステム学科4年)

私の卒業研究は数学の学習支援システムを開発しています。数学の学習では、学習者が計算過程の誤りやその理由を振り返る必要がありますが、独力で誤りやその理由を見出すことは難しい場合があります。そこで本研究では、計算過程を小問に分割することで、正しい計算過程を体験し、流れを理解する支援を行うシステムの研究を行っています。将来的には、現場での実証実験を行いたいと考えています。

研究室担当教員

長尾 雄行先生

■プロフィール

三重県出身。東京大学大学院数理科学研究科博士後期課程満期退学。産業技術大学院大学産業技術研究科助教を経て、2016年に本学情報学部コンピュータシステム学科着任。数学・e-Learningシステム等の研究に従事。

入試広報 NEWS

静岡理科大学の「スゴい」を体感!

■好奇心をくすぐるタイトルがズラリ!ウェブマガジン「in-sist」

ウェブマガジン「in-sist」はもうご覧いただけましたか!配信を始めて間もなく1年になります。この間、サイエンス、テクノロジー、デザインといったカテゴリーで、その発想や研究がわたしたちの生活や社会にどう影響するのかについて、以下の話題を提供してきました。

- 発酵と腐敗のボーダーラインとは!?
- “プラスチック” が、ガンを治す時代へ
- 液体が動く!? ミステリアスな次世代エネルギー
- 建築の歴史をのぞく「窓」というタイムマシン
- “計算” が化学の世界を解き明かす
- 建築家に必要なのは「思いやりのある自己主張」
- ダイヤも炭も元は炭素…
結びつき方で変わる原子の秘密
- 静岡県発の航空宇宙産業が誕生する!その真相
- 空気でも水でもない、地球にしかない物質とは?
- AIを搭載した「家」が、暮らしをトランスフォームする



いかがですか。どれも好奇心をくすぐるタイトルばかりでしょ。何かひとつでも印象に残り、これからの生活に役立つ情報や知識を得ていただけたなら幸いです。まだご覧になられていない方は、是非お読みいただくことをお勧めします。

今後も引き続き興味を惹く話題を提供していきますので、ウェブマガジン「in-sist」(<http://in-sist.jp/>)の読者になって先人の知恵とこれからの未来に思いを馳せてみましょう。

進路イベントの日程【3月～6月】

- 大学見学会 3/22(木)、5/19(土)、6/17(日) 開催時間 13:00～16:00
無料駐車場有、JR愛野駅南口より無料シャトルバス運行。

in-sist



平成29年度 学長特別表彰・学部長表彰

優れた活躍や学生の模範となる顕著な成績を上げた学生に対し表彰を行いました。



前期

学部長表彰 コンピュータシステム学科 4年
生熊 紀寿さん

日本オペレーションズ・リサーチ学会
「評価のOR」学生奨励賞

学部長表彰 情報デザイン学科 4年
川崎 真依さん

「次代を担う若者たちによる県民会議」への積極的参加

後期

学長特別表彰 コンピュータシステム学科 4年
寺田 憲弘さん

日本e-Learning学会
第20回学術講演会 優秀賞

学長特別表彰 システム工学専攻 2年
王思聰さん

型技術者会議2016 奨励賞

学部長表彰 コンピュータシステム学科 3年
大場 春佳さん

VMStudio & TMStudio 学生研究奨励賞 佳作



学長特別表彰 情報デザイン学科 4年
川崎 真依さん

マニフェスト大賞2017

マニフェスト推進賞(市民部門)最優秀賞

学部長表彰 コンピュータシステム学科 4年
肥田 稔真さん

VMStudio & TMStudio 学生研究奨励賞 佳作

人事異動

●平成29年9月1日付採用



理工学部機械工学科 准教授
野内 忠則

専門分野 内燃機関工学、代替燃料、燃料解析

略歴 茨城大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。University of Windsor (Canada), Clean Combustion Engine Laboratory 博士研究員を経て、本学准教授に就任。

趣味 サッカー観戦、旅行、音楽鑑賞

よりよいCampus News作りのために、アンケートにご協力ください。



回答はこちらから



※所要時間たったの1分程度

電気電子工学科 服部知美准教授が永守賞を受賞



平成29年9月3日(日)、京都市内において第3回永守賞の表彰式が開催され、本学電気電子工学科の服部知美准教授が永守賞を受賞しました。

この賞は、モータ、アクチュエータや発電機等の周辺分野も含めた技術の研究開発をより活性化させるため、公益財団法人永守財団が、優れたモータ技術者を表彰するものです。

服部准教授は、永久磁石同期モータの振動を抑制する手法に関する研究において、モータの振動を電子制御システムで低減する技術を確認しました。論文を発表。また、高効率モータを作るためのモータ巻線や絶縁材料に関する研究も実施し、多くの特許などを出願していることが評価されました。

同窓会
だより

ホームカミングデーの開催

平成29年10月29日(日)、第17回ホームカミングデーを開催しました!当日は、約400名の同窓生が参加し、今年のメインイベント「親子で協力〇〇ゲーム」では、親子が二人羽織を行い、笑いあり、涙ありの楽しいイベントとなりました。その後の「大抽選会」と併せ、大いに盛り上がり、親交を深め合うホームカミングデーとなりました。



同窓会各種SNSのお知らせ

ホームカミングデー等の開催告知、役員コラム、同窓会ニュース等の最新の情報を一早くお届けします!盛りだくさんの内容となっていますので、是非登録してください!



後援会
だより

父母懇談会の開催

平成29年10月28日(土)、父母懇談会を開催し、200名を超える保護者が参加されました。全体会では大脇後援会長からご挨拶をいただき、後援会の活動状況について、今年度はキャンパス内環境整備として、学内の植栽改修並びに中庭ベンチ16台の設置支援を実施予定との報告がありました。

さらに、株式会社はあもにい代表取締役の大野晴己氏をお招きして「少子化時代ならば就職は誰でもできる? ~就職活動で企業を見極めるコツ~」と題したご講演をいただきました。多くの企業担当者との交流がある大野氏に就職活動におけるポイントなどを説明していただき、来場された方々も熱心に耳を傾けていました。

午後からの「個別面談」には、約100名の保護者が参加され、大学や家庭での様子を助言教員と情報交換を行うなど、大変有意義な機会となりました。

サークル紹介 **SIST Dance crew** 部長 **吉永 潤紀**さん (情報デザイン学科2年)

ダンスサークル「SIST Dance crew」は、設立2年目となりました。現在部員は13人が所属しています。月曜日・水曜日・金曜日の授業終了後にアリーナにて活動をしています。初心者が大半を占めるこのサークルでは、ダンス上達のために必要な基礎力を身につけるためにストレッチやリズムトレーニング、アイソレーション、体幹トレーニング、筋力トレーニングなどを行っています。



さらにHIP-HOP、ROCK、JAZZ、BREAKIN'、HOUSEなどの多彩なジャンル

に取り組むことで個々の個性を引き出すこともできます。新入生歓迎会や大学祭での発表を目標に振りの練習にも取り組んでいます。今後は新しいことをしようという試み「チャレンジ企画」も行っていきます。

スポットライト
がんばる理工科大生



平口 誠也さん
(理工学研究科材料科学専攻1年)

私は、小林久理眞教授の下で、磁性材料について学んでいます。具体的には、磁気特性を測定し、得られた着磁挙動の解析やシミュレーションを用いた磁気特性の評価・検討などを行っています。これらの解析結果は、教科書や本などには載っていない内容であり、常に新しいことについて学ぶことができます。今後も磁性材料について、理解を深めていきたいと思っています。

大学や大学院では、考える力を得る事ができました。これは、研究をしていく中で、上手いかない時に、原因について考え、改善案を模索していく時や、想像と異なる結果が得られた際に、何故そのような結果が得られたのかを考えていく中で、養われたと感じています。考える力は、社会人になってからも重要な能力だと思うので、今後の人生に生かしていきたいと思っています。最近では、粉体粉末冶金協会主催の学会に参加させて頂き、他大学の方との交流を通して様々な刺激を得る事ができました。今後も、学会に参加する機会も増えていくと思うので、より一層研究に力を入れていきたいと思っています。

編集後記

ここ数年、本学はちょっとした変化の波にさらされています。例えば、開学時に着任された先生方の定年退職、それに伴う新規採用教員の増加、情報学部改組および理工学部建築学科の設置、建築学科棟の竣工などです。近隣では大学南側への工業団地整備が進んでおり、眺めも一変しそうです。この波を乗り越え、より一層社会や時代に求められる大学を目指していきたいものです。ちなみに、工業団地整備時に生じた土は防潮堤の盛土となったようです。(S)

静岡理工科大学キャンパスニュース

平成30年2月20日発行
企画・編集・発行／静岡理工科大学 大学広報委員会
〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2
TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110
<http://www.sist.ac.jp> E-mail:c-news@sist.ac.jp

